

# 第1章 人口の現状分析

## 第1節 人口動向分析

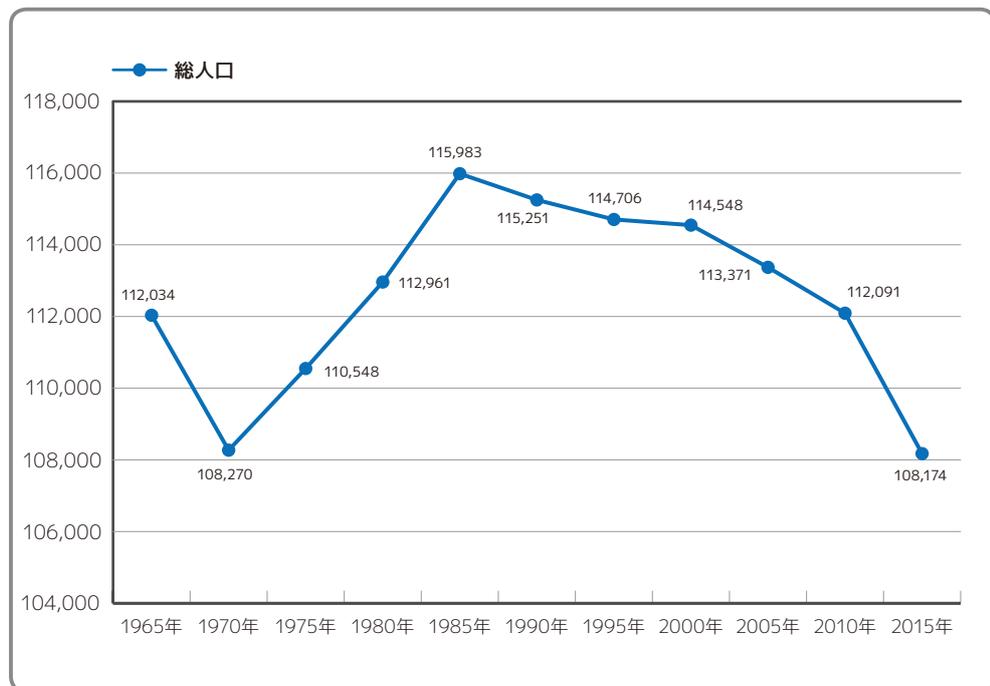
### (1) 総人口の推移

西条市の総人口は、1970年にかけて人口が大きく減少したものの、その後は上昇傾向が続いて1985年に総人口のピークを迎えました。

しかし、その後は再び減少傾向に転じ、2015年時点では1970年とほぼ同じ水準まで低下するに至りました。

今後、更に人口減少が進み続けると、2020年以降は少なくとも過去50年間で経験したことの無い領域に突入します。

図表1-1 1965年から2015年までの西条市の総人口推移 (単位：人)

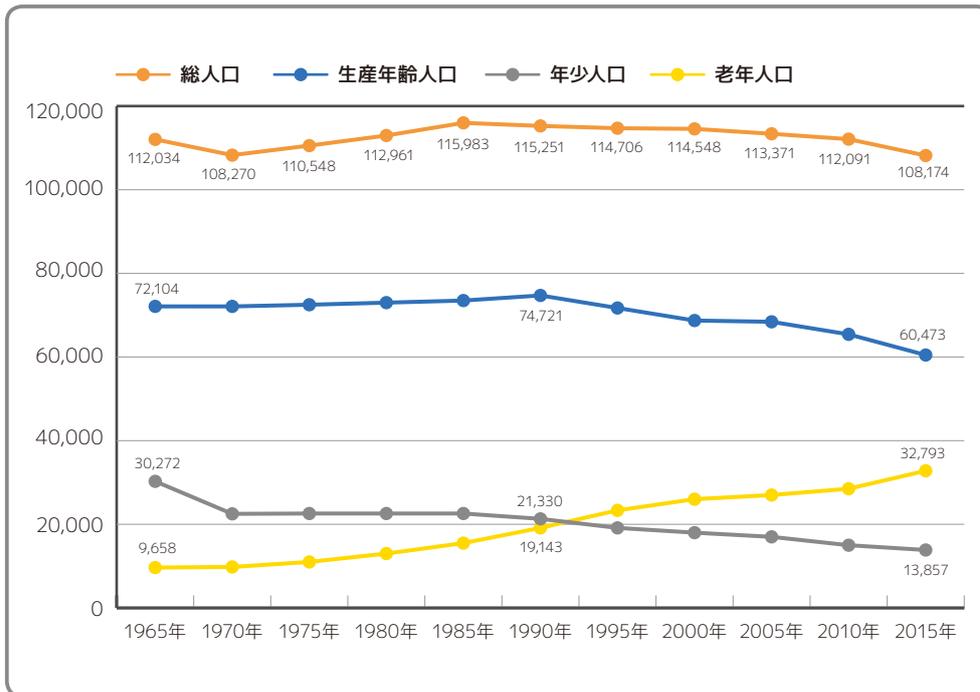


出典：総務省「国勢調査」

## (2) 年齢3区分別人口の推移

西条市の年齢3区分別人口は、年少人口（0～14歳）と生産年齢人口（15～64歳）が減少傾向にある一方で、老年人口（65歳以上）は増加傾向にあります。1995年には老年人口が年少人口を上回りました。

図表1-2 西条市の総人口と年齢3区分別人口の推移 (単位：人)



※ 総人口のみ年齢不詳分を含む

出典：総務省「国勢調査」

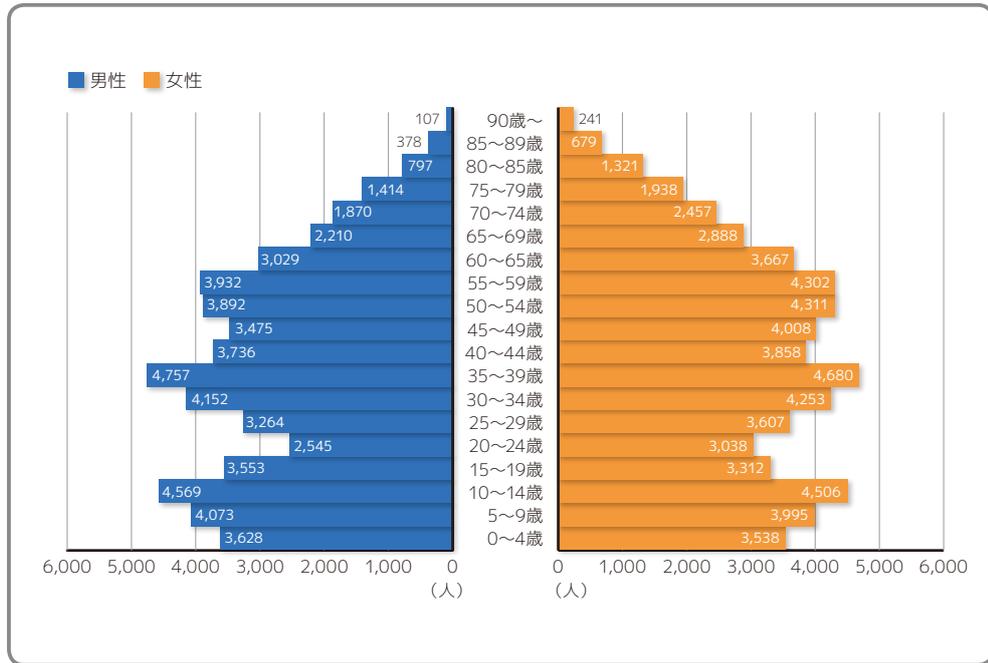
## (3) 年齢別人口の推移

1985年における西条市の年齢別人口は、35～39歳の団塊世代と、10～14歳の団塊ジュニア世代が隆起しています。

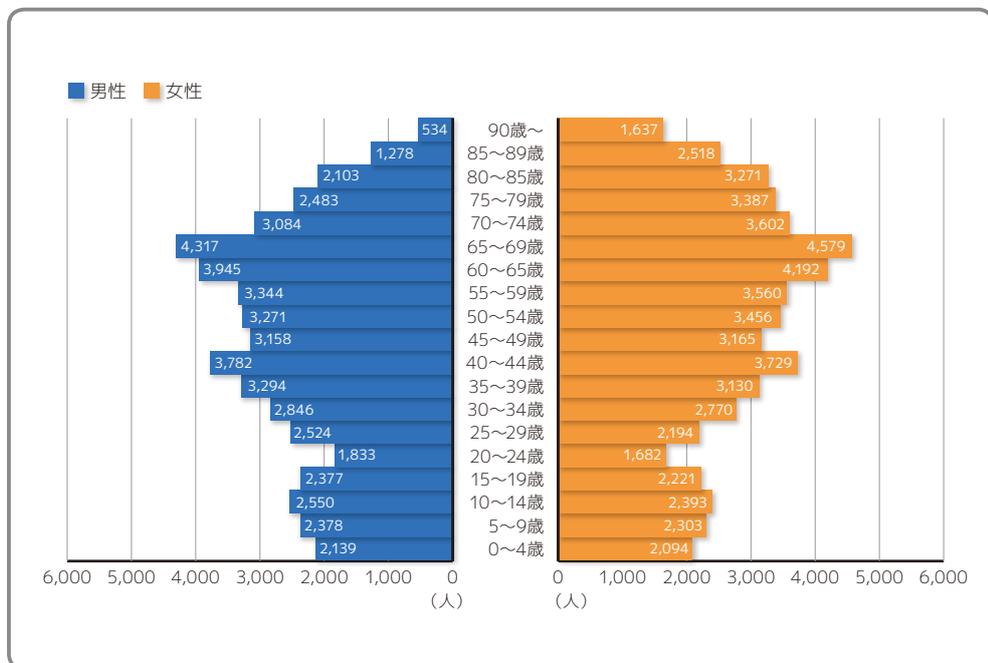
それから30年後の2015年には、団塊世代が65～69歳、団塊ジュニア世代が40～44歳を迎えて高齢化し、人口ピラミッドも上に押し上げられました。

1985年と2015年のどちらも20～24歳の年齢層が最も少なく、進学や就職などを理由に市外へ転出する方が多いことが要因として考えられます。

図表1-3 西条市の年齢別人口構成ピラミッド(1985年)



図表1-4 西条市の年齢別人口構成ピラミッド(2015年)



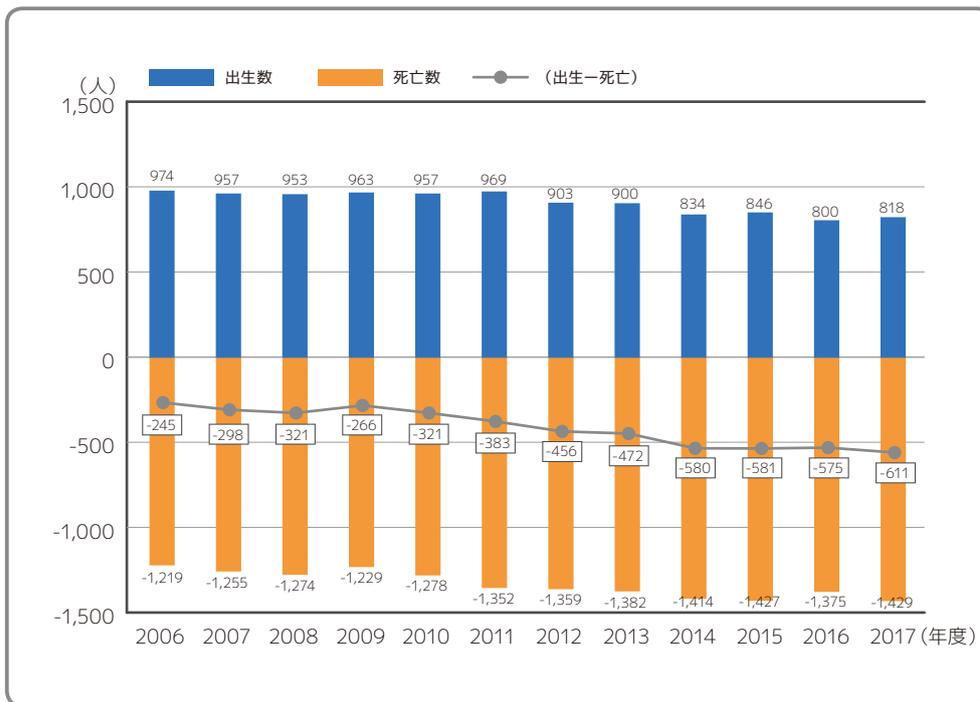
出典：図表1-3、1-4ともに総務省「国勢調査」

#### (4) 人口の自然増減の状況

西条市における人口の自然増減（出生数－死亡数）は、2006年度以降は自然減が続いており、2010年度頃までは出生数と死亡数ともに横ばいの状況でした。

しかし、2012年度以降は出生数が減少して死亡数が増加する傾向が見られるようになり、特に死亡数が大幅に増加したことから、自然減の幅が大きくなりました。

図表1-5 西条市における自然増減（出生・死亡）の推移



出典：西条市住民基本台帳データをもとに西条市自治政策研究所が作成

西条市の合計特殊出生率は、2008年から2012年まで平均して1.72となっています。その数値は全国平均や愛媛県平均より高い数値となっています。

しかし、人口を維持していくために必要とされる水準（人口置換水準：2.07）は下回っています。

図表1-6 西条市および県内自治体における平均合計特殊出生率（2008～2012年）

西条市	松山市	今治市	新居浜市	四国中央市	東温市	愛媛県	全国
1.72	1.36	1.62	1.80	1.70	1.29	1.50	1.38

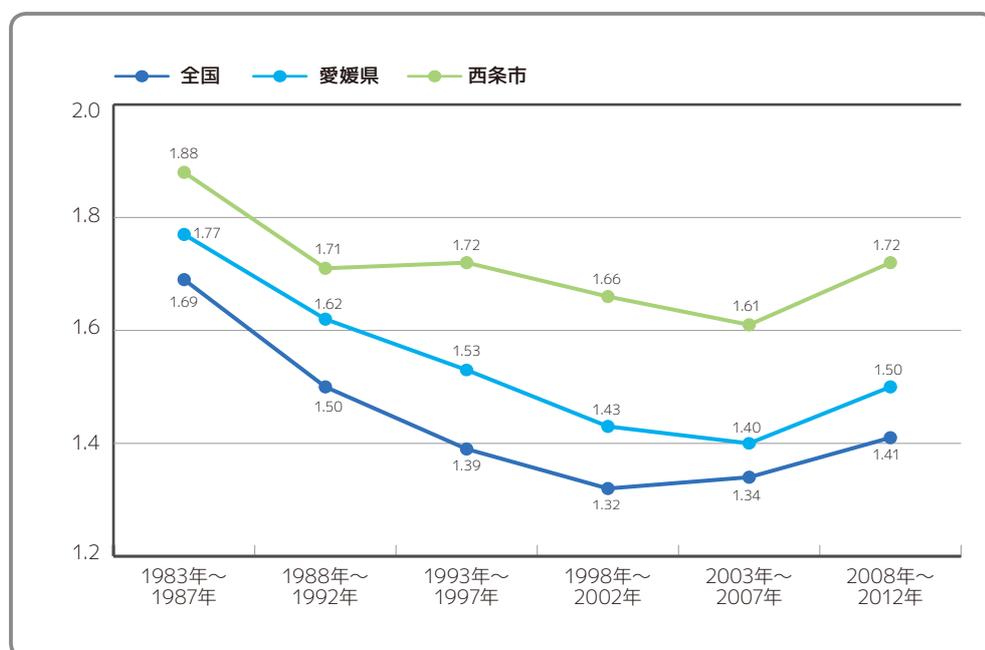
出典：厚生労働省「人口動態保健所・市町村統計」

※ 合計特殊出生率

一人の女性が一生の間に生む子どもの数に相当する数値をいいます。

人口を維持するために必要とされる合計特殊出生率は、2.07とされ、人口置換水準といわれます。

図表1-7 合計特殊出生率の推移



※ 全国の合計特殊出生率は各期間の最終年の数値

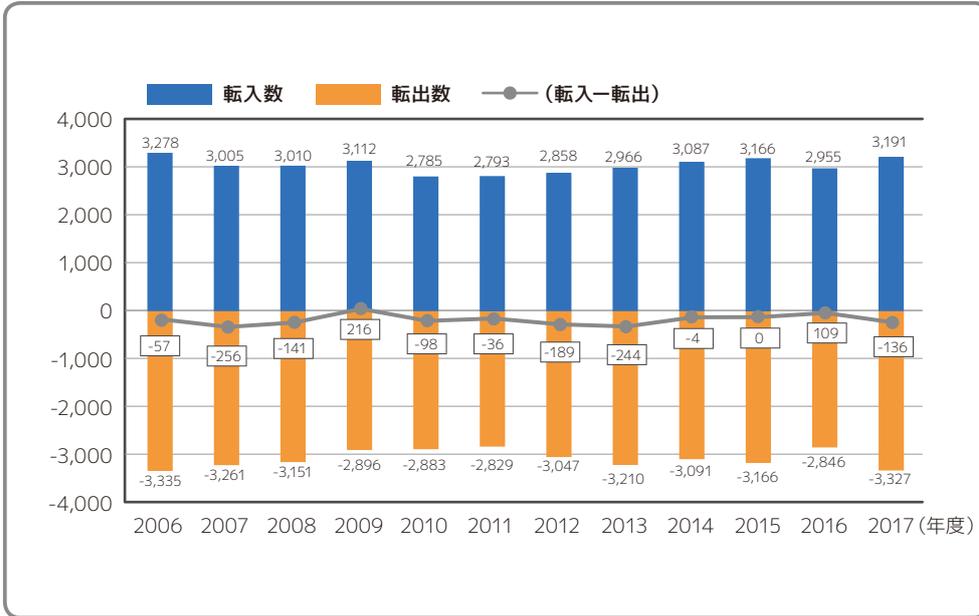
出典：社人研「人口統計資料集」、厚生労働省「人口動態統計」

### (5) 人口の社会増減の状況

西条市における人口の社会増減（転入数－転出数）は、転入と転出がともに年間約3,000人前後で推移しており、社会減となっている年度が多いものの、2015年度は社会増減なし、2016年度は社会増となっています。

なお、2017年度はマイナス136人と大幅な社会減となりましたが、転入数は3,191人と2007年以来最も多く、転出数も3,327人と2007年以来最も多くなりました。

図表1-8 西条市における社会増減（転入・転出）の推移（単位：人）



※ 外国人登録法が改正される2011年以前の数値には外国人住民を含んでいない。

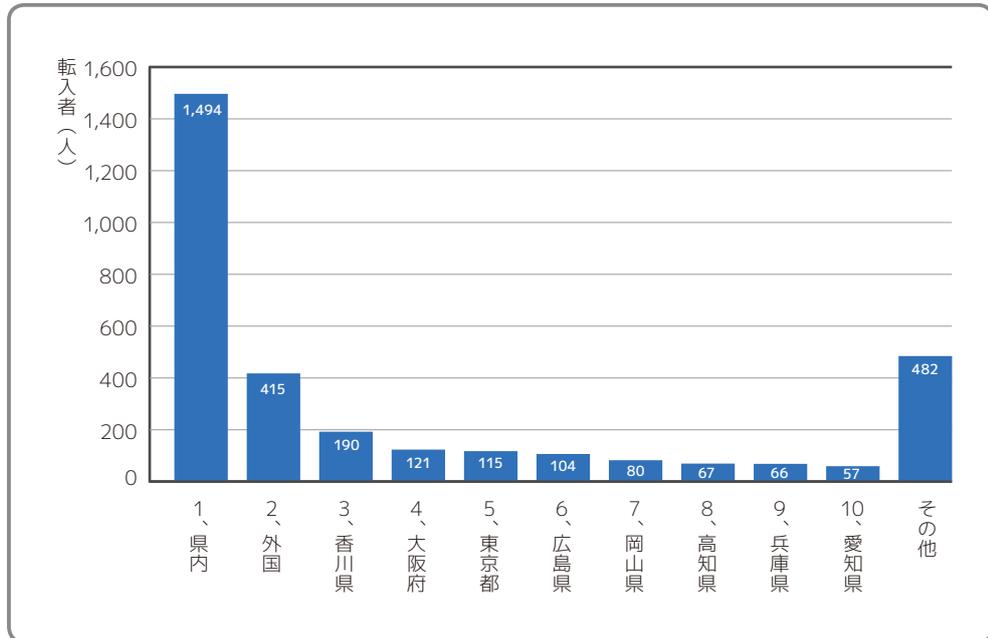
出典：西条市住民基本台帳データ

西条市における都道府県別の転出入は、愛媛県内からの転入が1,494人（全体の約47%）、愛媛県内への転出が1,670人（全体の約50%）となり、約半数が愛媛県内の移動であることが特徴です。

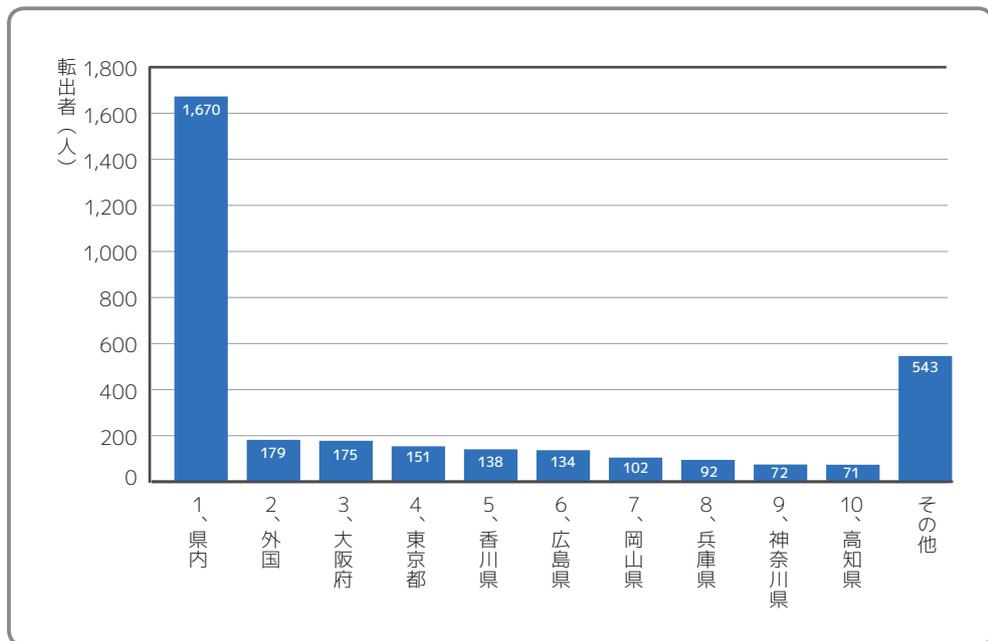
また、移動元（先）の傾向としては、愛媛県内を含む四国地方、中国地方、近畿地方が多く、続いて関東地方、中部地方などの大都市圏が多くなっています。

海外の移動者が多い理由は、外国人技能実習生の移動によるものと推察されます。

図表1-9 2017年度における西条市への転入元の都道府県別転入者数（海外含む）



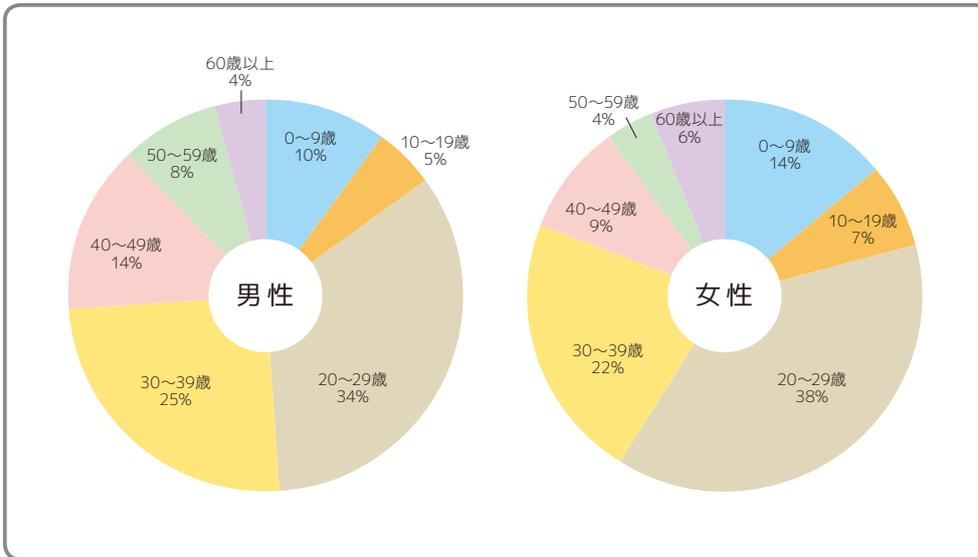
図表1-10 2017年度における西条市からの転出先の都道府県別転出者数（海外含む）



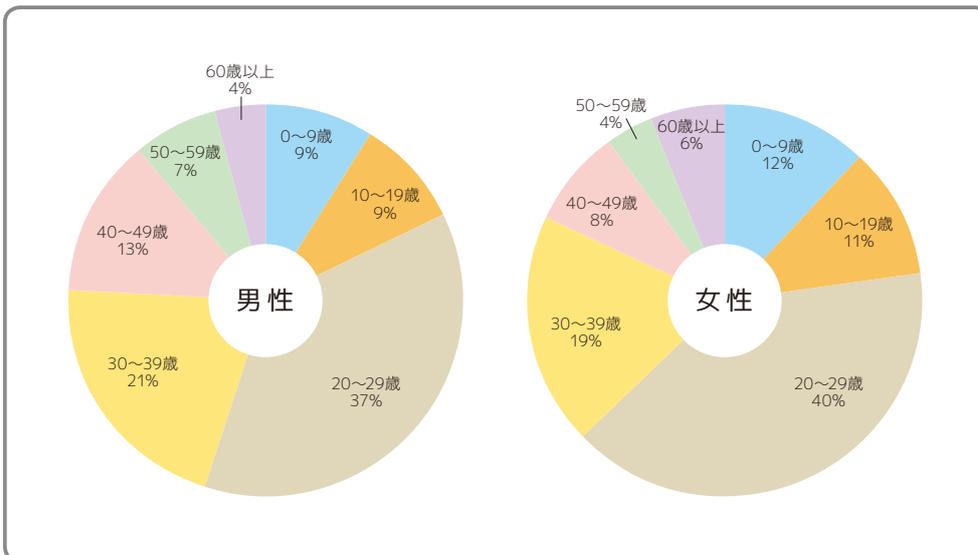
出典：図表1-9、1-10ともに西条市住民基本台帳データ

2017年度における西条市への転入者および西条市からの転出者の男女別・年齢区別の割合は、転入と転出のいずれも20～39歳までの移動者が半数以上を占めています。また、0～9歳の移動者が多い理由は、20～39歳までの移動者が0～9歳の子どもを連れて移動していることが要因として推察されます。

図表1-11 2017年度における男女別及び年齢別の西条市への転入者の割合



図表1-12 2017年度における男女別及び年齢別の西条市からの転出者の割合

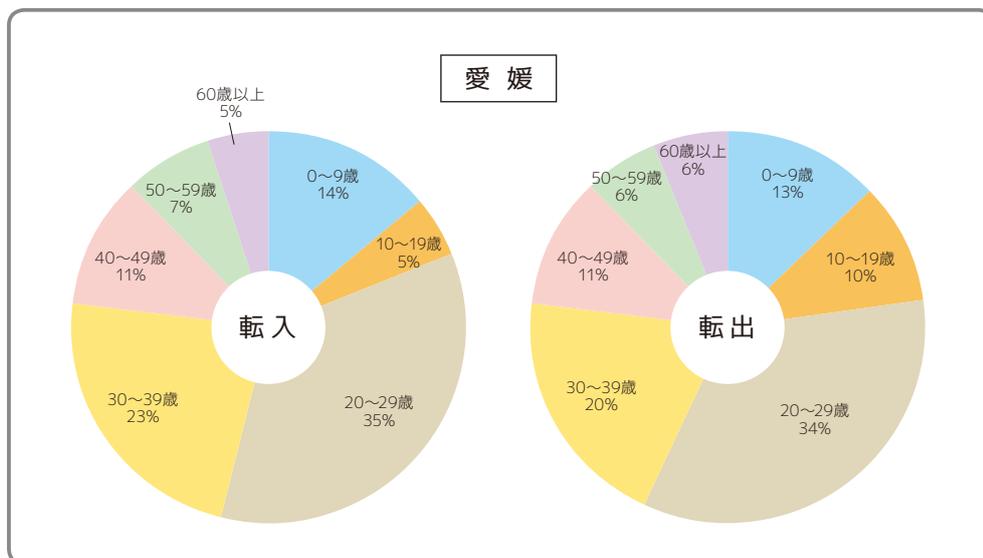


出典：図表1-11、1-12ともに西条市住民基本台帳データ

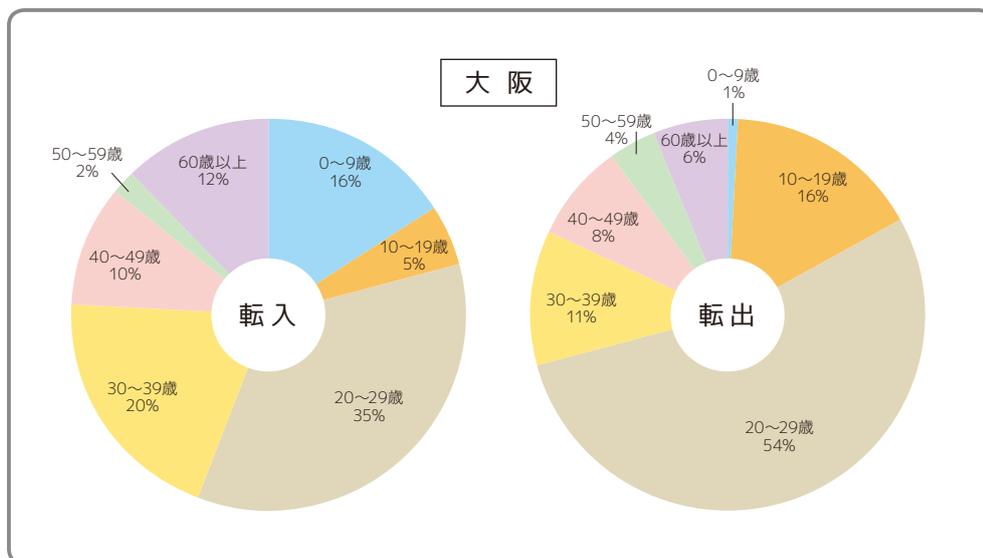
2017年度における東京都および大阪府から西条市への転入者は、愛媛県内からの転入者と比較して60歳以上が多い傾向が見られました。これは、定年後に地元へ帰ってこられる方が多いことが要因として推察されます。

また、西条市から東京都および大阪府への転出者は、愛媛県内への転出者と比較して20~29歳が多い傾向が見られました。これは、進学や就職に伴う大都市圏への若者の転出傾向が要因として推察されます。

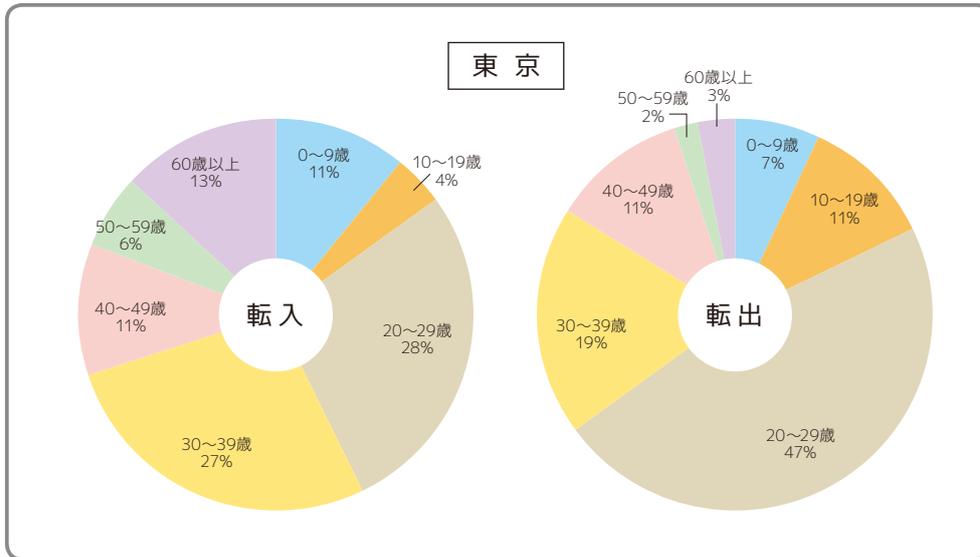
図表1-13 2017年度における年齢別の西条市と愛媛県内との移動者の割合



図表1-14 2017年度における年齢別の西条市と大阪府との移動者の割合



図表1-15 2017年度における年齢別の西条市と東京都との移動者の割合

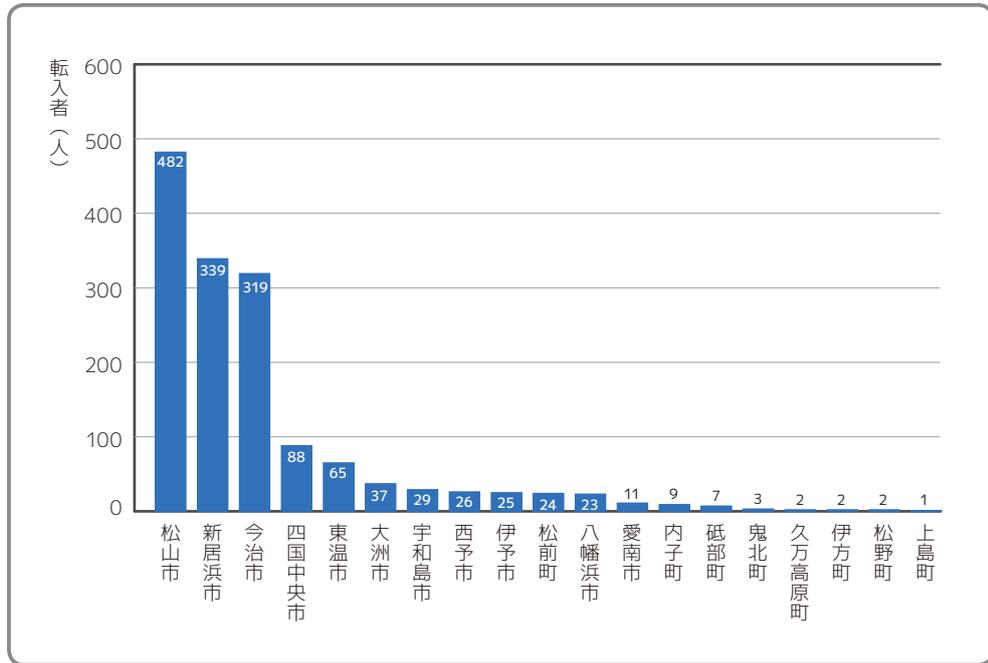


出典：図表1-13、1-14、1-15ともに西条市住民基本台帳データ

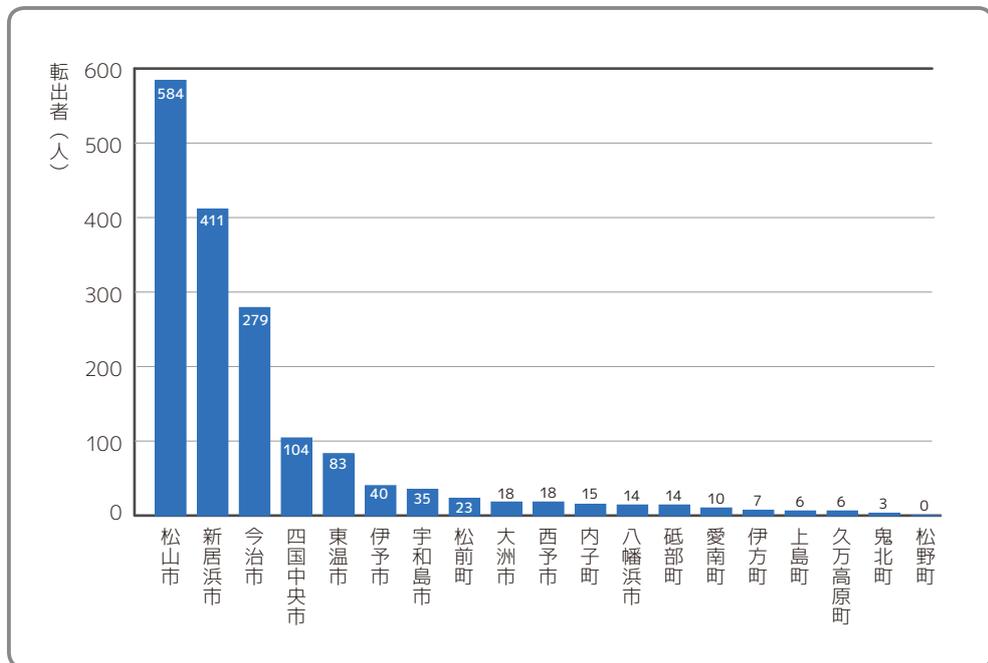
2017年度における西条市と愛媛県内市町との移動は、松山市からの転入が482人（全体の約32%）、松山市への転出が584人（全体の約35%）となり、松山市との間の移動が多いことが特徴です。

次に、新居浜市（転入が全体の約23%・転出が全体の約25%）が多く、続いて今治市、四国中央市となっており、近隣市町との間の移動が多くなっています。

図表1-16 2017年度における愛媛県内市町別の西条市への転入者数



図表1-17 2017年度における愛媛県内市町別の西条市からの転出者数



出典：図表1-16、1-17ともに西条市住民基本台帳データ